

# 中間市の未来への道

教育の力、関係の力、地域の底力

2024/02/05

北九州市立大学大学院マネジメント研究科

松永裕己

matsu@kitakyu-u.ac.jp

# 日本の地域政策の特徴と変化

# 日本の地域政策は何をやるうとしてきたのか？

戦後の地域政策の一貫した目標

国土の均衡ある発展 = 地域間格差の是正

## 政策例

- 日本列島改造論
- 高速道路網の整備
- テクノポリス開発
- リゾート開発
- 東京一極集中是正

地方の開発や経済振興を優先的に行い、三大都市圏（特に東京）への人口移動を食い止め、格差を縮小させる

# 日本の地域政策の変化

戦後～2005年

国土総合開発法

全国総合開発計画

(規定)

地方総合開発計画

(規定)

都道府県総合開発計画

特定地域総合開発計画

地域間格差の是正のために  
国が権限と財源を持って  
地域振興計画を作成

中央集権的地域政策

地方は国を見て政策実施

2005年～現在

国土形成計画法

国土形成計画  
(全国計画)

※国による作成



相互調整

国土形成計画  
(ブロック計画)

※地域の主体的作成

地域間格差の是正の後退

地域の独自性や主体性が  
強く求められるように

地方分散的地域政策

地域の役割の拡大

大転換

# 2000年前後に生じていた地域政策の転換

- ・工場立地法改正（1998）、工場等制限法見直し（1999）  
→大幅な規制緩和

- ・地域産業集積活性化法（1997）  
→大都市部や工業地帯を中心に基盤産業を育成

- ・都市再生特別措置法（2002）  
→大都市圏の再開発を中心に建設や建築に関する規制緩和

- ・構造改革特別区域（2003）  
→規制緩和による民間活力の引き出しを地域限定で行う  
→国による提示ではなく、地域・民間からの提案

- ・地域再生プロジェクト（2003）  
→規制緩和に加え権限委譲や補助金の使い勝手向上などを地域限定で行う  
→国による提示ではなく、地域・民間からの提案

大都市集中  
を容認へ

変化の背景にあるのは

- ・グローバル化
- ・人口減少
- ・財政悪化

地域の企画力  
の競争を重視

# 地域政策の大転換

・ 第一次全国総合開発計画 (1962)

・ 第二次全国総合開発計画 (1969)

・ 第三次全国総合開発計画 (1977)

・ 第四次全国総合開発計画 (1987)

----- 大きな転換

・ 国土のグランドデザイン (1998)

----- 抜本的制度変更

・ 国土形成計画 (2008)

・ **地方創生 (2014)**

・ 第二次国土形成計画 (2015)

地域間の格差是正を重視  
中央集権的な分散化政策



地域間格差是正の後退  
地域の主体性の重視

# 地方創生政策の内容とその問題点

# 地方創生（2014年～）とは

## 地方創生（まち・ひと・しごと創生総合戦略）

### 1. 人口減少と地域経済縮小の克服

- ①「東京一極集中」を是正する。
- ②若い世代の就労・結婚・子育ての希望を実現する。
- ③地域の特性に即して地域課題を解決する。

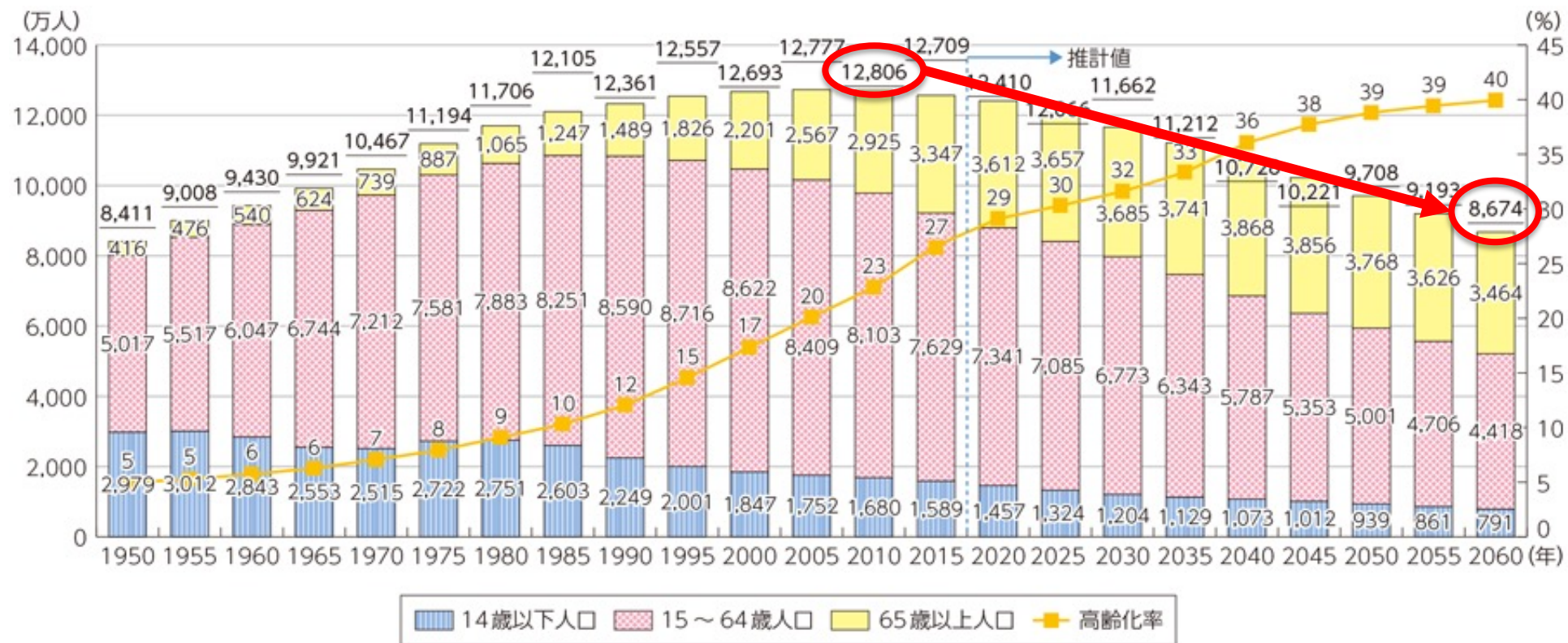
### 2. まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

- ・「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立することで、地方への新たな人の流れを生み出す
- ・その好循環を支える「まち」に活力を取り戻し、人々が安心して生活を営み、子どもを産み育てられる社会環境をつくり出す

契機となっているのは人口減少と「地方消滅」



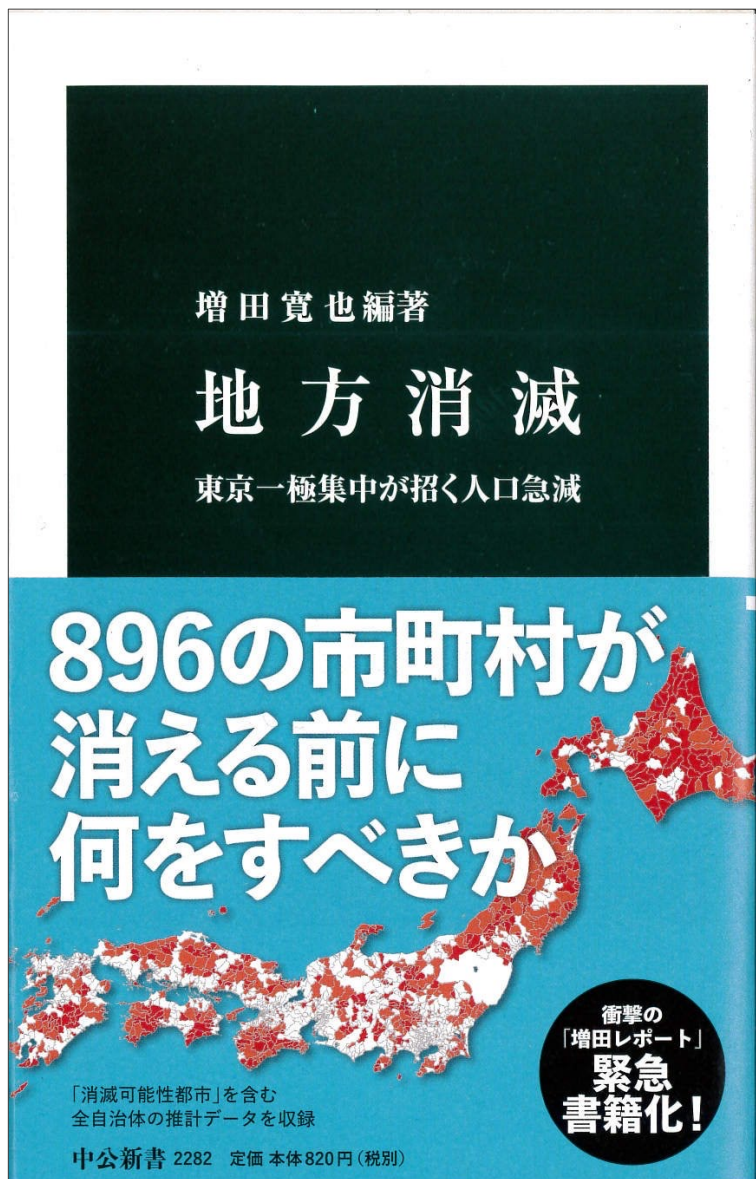
# 日本の人口推移



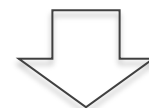
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h29/html/nc135230.html>

日本の人口そのものが減少を続ける

# 増田レポートと「地方消滅」の衝撃



出生率の低下 + 東京一極集中

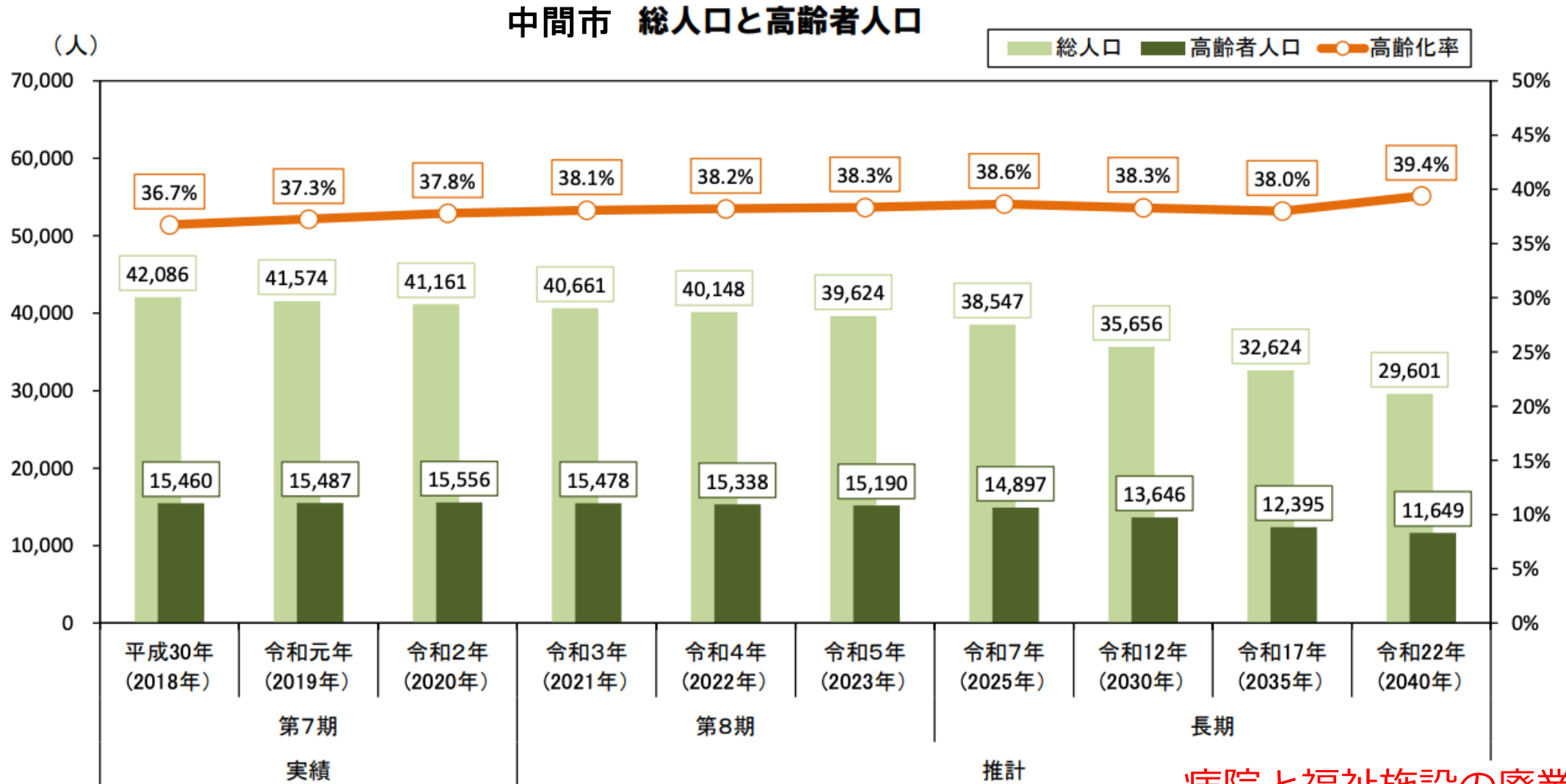


過疎を越えて、地方消滅？

## 地方消滅の道筋

- 地方では医療・福祉が主な産業になっている
- それを支えているのは若年女性
- 地方の高齢者はまもなく減少し始める
- 大都市の高齢者はしばらく増え続ける
- 雇用を失う若年女性は大都市に移動する
- 地方の少子化がさらに進む
- 地方消滅？

# 実は中間市の高齢者人口は既に減りはじめています



病院と福祉施設の廃業増加？

# 地方創生の特徴

- 人口減少が最大の課題として設定されている
- 移住への着目（移住促進を重視）
- 地域ごとの課題設定、主体性を重要視
- 地域資源の重視
- 国から地方へ年間 1 兆円規模の財政支援
- 地域ごとにKPI（鍵になる数値目標）を設定



地域間で、  
人口と補助金の争奪戦に

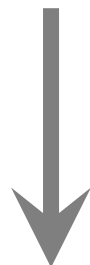
# 地方創生は地域に何を求めているのか？

- 東京一極集中対策と言いながら地域間格差是正はできない  
(具体的な格差是正策はとれない)
- 地域ごとの課題設定、地域の独自性、主体性を重要視  
(裏を返せば、地域の自己責任)

地域（自治体）の政策立案力・企画力が問われる状況

しかし自治体の税収も職員数も減っていて限界・・・

地方創生策では地方の人口は増えない



地域の独自性、地域の主体性が必要だが、  
人口減の加速でまちづくりの担い手も減少

# 注目される関係人口と地方創生の成功例

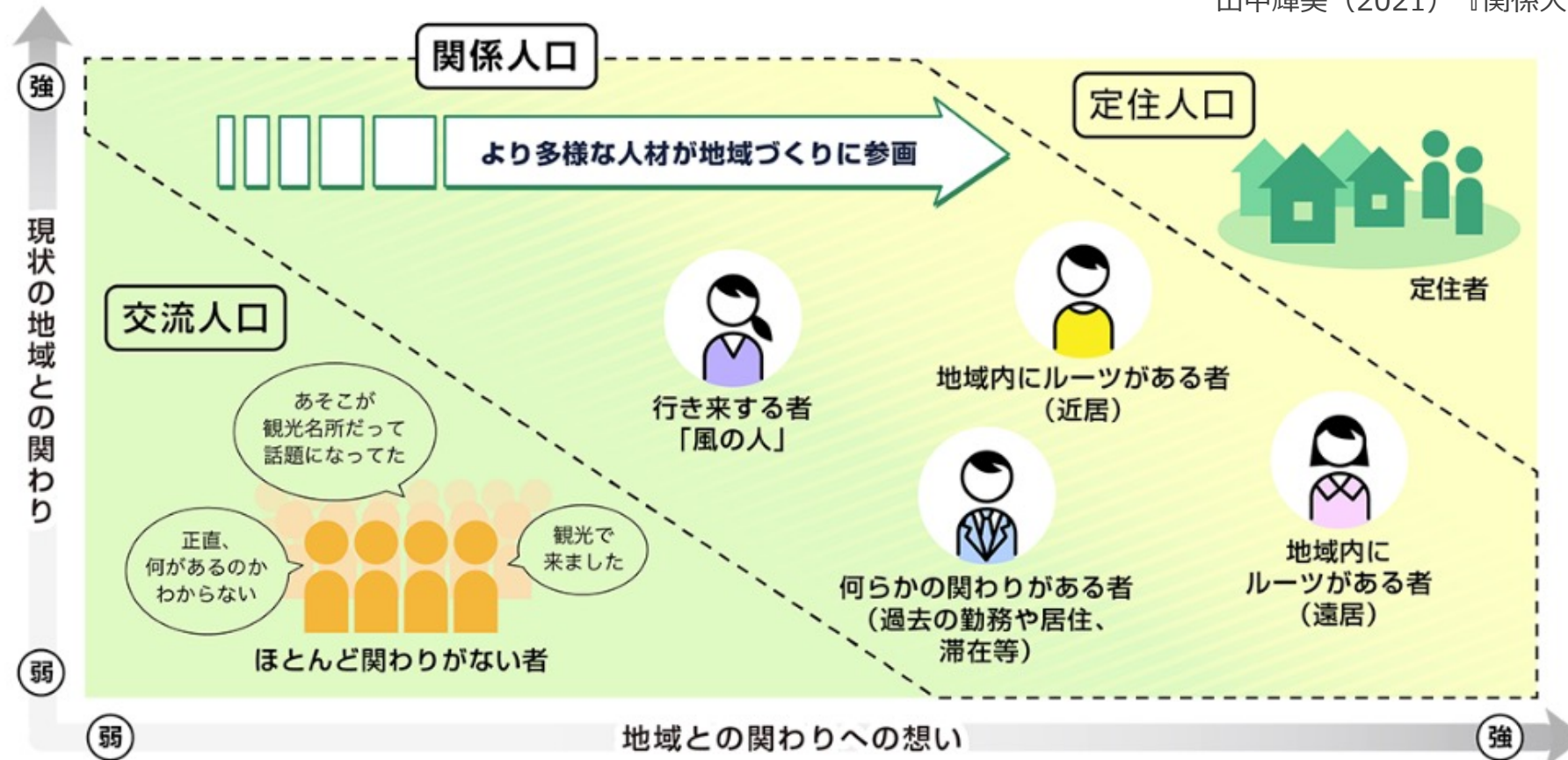


# 注目される関係人口

## 関係人口とは

- ・ 定住人口でも交流人口でもない、地域と多様に関わる人びと（総務省による定義）
- ・ 特定の地域に継続的に関心を持ち、関わるよそ者（田中輝美による定義）

田中輝美（2021）『関係人口の社会学』大阪大学出版会

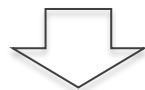




# 地方創生と関係人口

地方創生でもっとも重視されているのは「移住」 = 定住人口の減少を食い止める

→ 移住で期待されているのは、定住人口を増やすことだけではない



期待されているのは、よそ者の視点や活力

- ・ その地域に生まれ育った人は気づかない発見
- ・ その地域にない新しい知識、感性、考え方
- ・ 新しい人脈 etc.



地域の資源

# 関係人口に対する期待

## ○関係人口は増加が可能

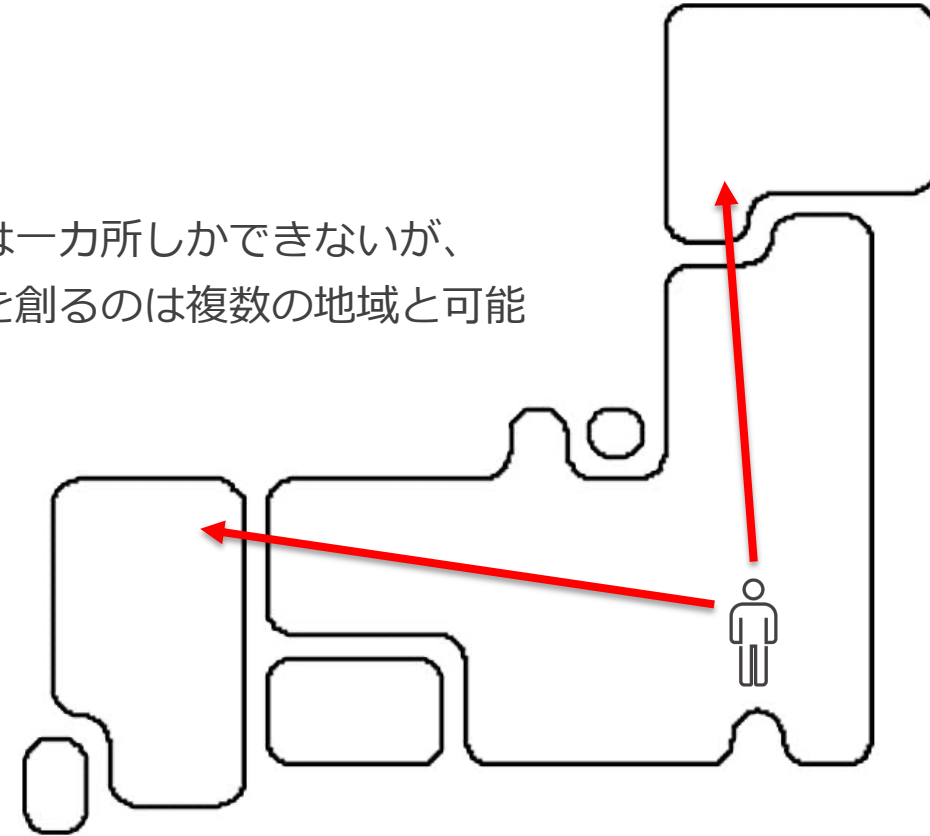
- ・ 定住人口争奪はゼロサムゲーム
- ・ 関係人口は複数の地域と関われる

## ○関係人口ならではの役割

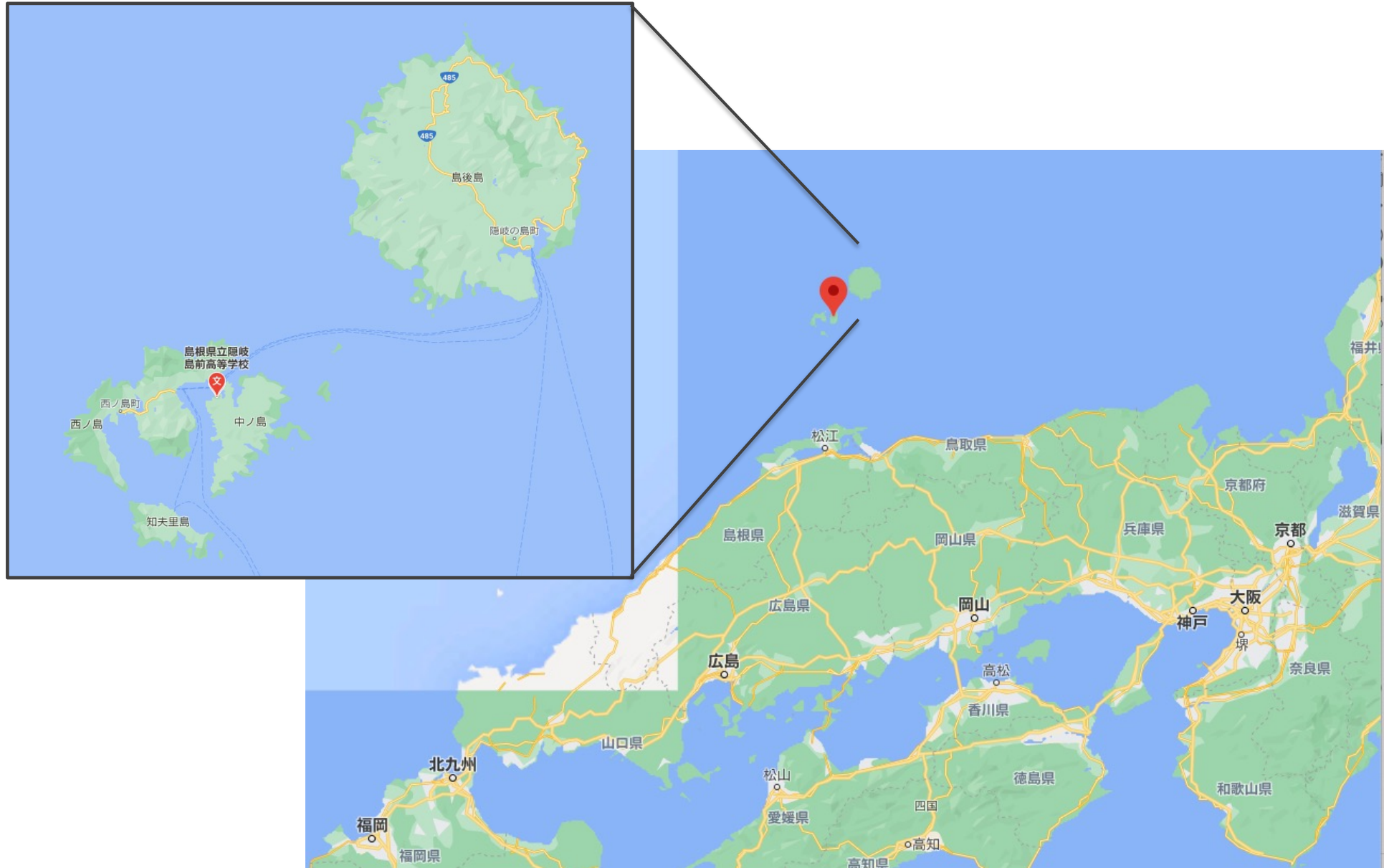
- ・ その地域に生まれ育った人は気づかない発見
- ・ その地域にない新しい知識、感性、考え方
- ・ 新しい人脈 etc.

定住していないからこそ、  
できることがある

移住は一カ所しかできないが、  
関係を創るのは複数の地域と可能



# 地方創生の成功例：島根県海士町



# 島根県海士町の状況（取り組み以前）

## □ 不便な離島

→フェリーで約3時間、高速船で約1時間半（冬は運休）

## □ 続く人口減少（1950年約7000人→2000年約2670人）

→特に20代、30代の少なさ

## □ 2003年、国や県からの市町村合併要請を拒否

→国や県からの交付金や補助金が大幅に削減される恐れ

## □ 県立島前高校（どうぜんこうこう）の入学者の減少

→全学年で90人未満に（2000年代）

→入学者が21人を切ると募集停止

教員数は生徒数に応じて決まる  
全ての科目を教えられなくなる

（例えば、物理の授業ががない）

→学力が高い子ほど、本土の高校へ

部活は3つだけ

（レスリング、バレー、テニス）

→部活がしたい子は、本土の高校へ

ますます生徒が減少する恐れ

高校消滅の恐れ

もし高校が無くなれば、人口は加速度的に減少

# 地方創生の成功例（島根県海士町の高校魅力化プロジェクト）

- 県立島前高校があるが、離島のため成績の優秀な子ほど中学卒業後に島外へ
- 続く人口減少（7000人→2400人）
- 高校の存続の危機、廃校になれば地域消滅が加速・・・
- 平成の大合併を拒否（2003年）
- 「高校魅力化」を核とした戦略を開始（2007年）
- 外部の優秀な人材の誘致（ソニー、リクルート）
- 高校の隣に公営塾（隠岐國学習センター）を開設
- 地域外からの国内留学の募集
- 地域学（夢探求、夢ゼミ）の導入と地域全体での教育（島のお母さん制度）
- 高校の倍率アップと移住者の増加
- 住民の1割以上がIターン者
- 島起業の増加

# 高校魅力化における外部人材（関係人口）の活用



岩本 悠（元ソニー）  
魅力化構想を推進



豊田庄吾（元リクルート）  
隠岐國学習センター立ち上げ

よそ者ならではの力

- ・ 地元の人には気づかない発見
- ・ 新しい知識、感性、考え方
- ・ 新しい人脈 etc.



他地域から島留学した高校生

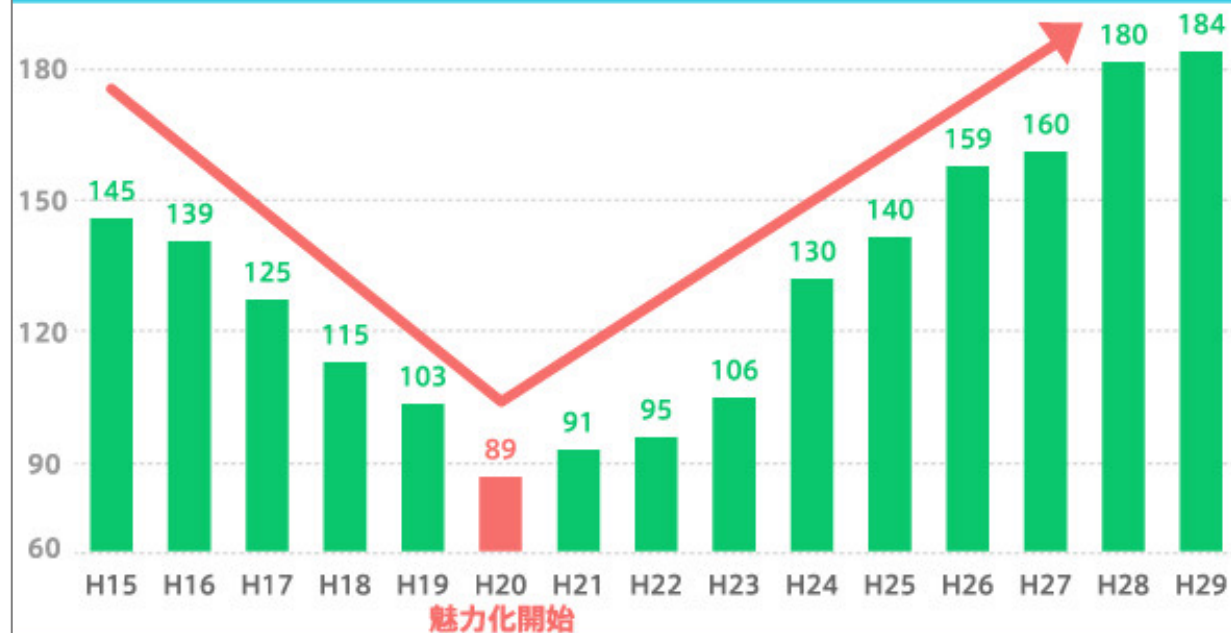


地域の人への影響大



# 海士町の成功

島前高校の全校生徒数の推移



地元中学校から地元の島前高校への進学率が **45% (2007年)** から **77% (2015年)**  
子どもたちの地域外流出が止まる

<http://miriyokuka.dozen.ed.jp/about/>

地域へのインパクト (海士町の場合)

## 大きく覆した人口減少予測



## 観光宿泊客延数



## 年間平均出生数



## 祭で神輿を出せる集落の割合



<http://miriyokuka.dozen.ed.jp/about/>

実は、それでも海士町の人口減少は続いている・・・

# 海士町の成功とはなにか？

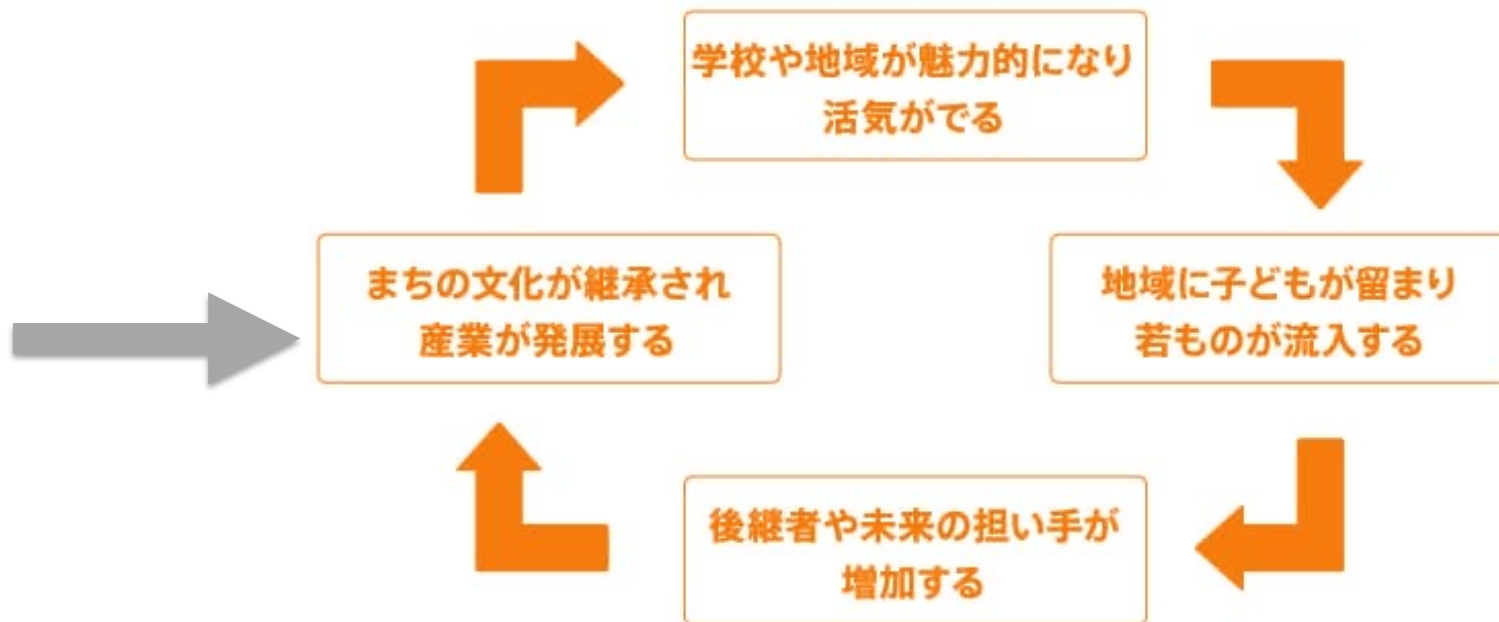
移住者の増加

人口減少の歯止め

視察者の増加

島起業の増加

コミュニティの活性化



<http://miriyokuka.dozen.ed.jp/about/>

## 地方創生

- ・「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立することで、地方への新たな人の流れを生み出す
- ・その好循環を支える「まち」に活力を取り戻し、人々が安心して生活を営み、子どもを産み育てられる社会環境をつくり出す



# 海士町はなぜ成功したのか？

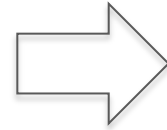
移住者の増加？

人口減少の歯止め？

視察者の増加？

島起業の増加？

コミュニティの活性化？



これを参考に何をを目指すのか？

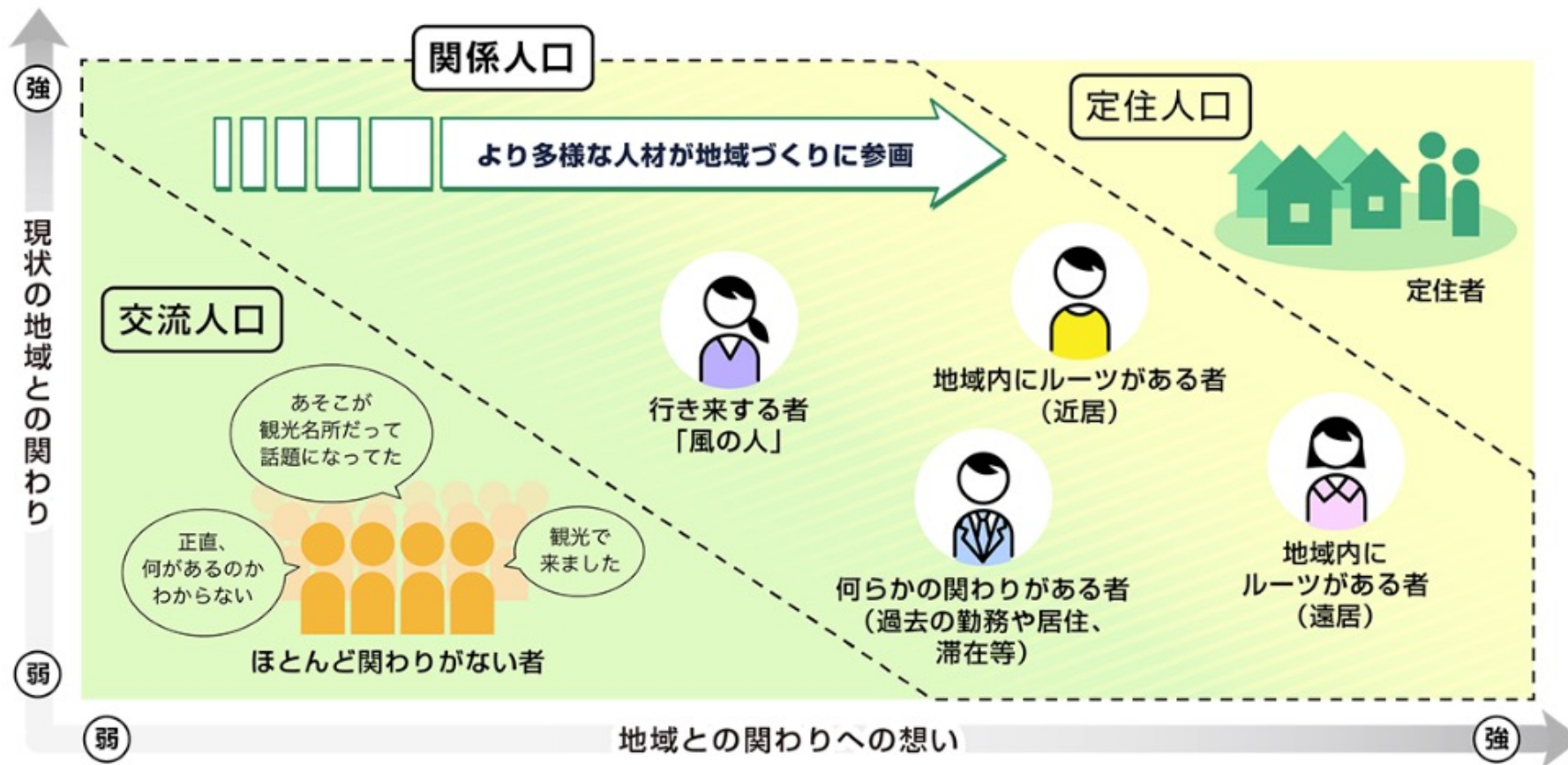
地域留学獲得？

移住者獲得？

優秀な人材確保？

成功！

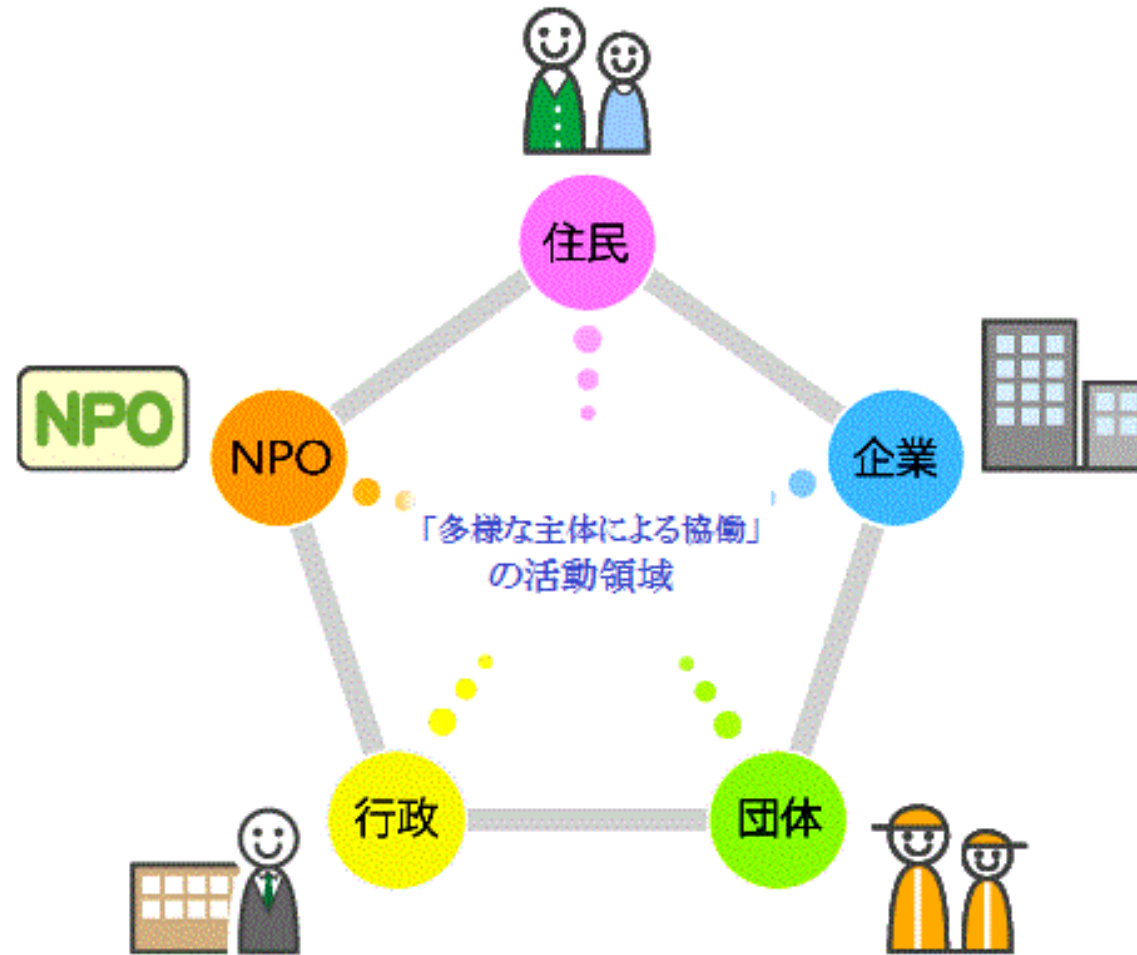
# 2つの関係人口：地域内の関係人口に着目する



内なる関係人口とは：  
地域に住み、地域に関心を持ち、地域活動を行う人。  
協働や新しい公共の主体。

外なる関係人口と内なる関係人口があるのでは？  
海士町の最大の成功は「内なる関係人口」の増加

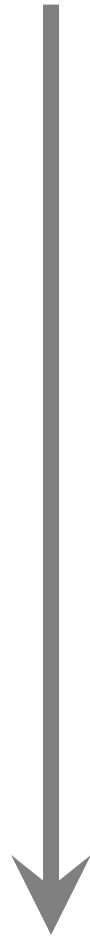
# 協働による新しい地域政策、地域づくり



地域づくりは行政だけではできない時代へ。公共はもはや行政だけでは担えない。

# 20世紀型まちづくりから新しいまちづくりへ そこでの地域活動のコツ

# 地域政策の大転換と地域づくりの変化



・ 第一次全国総合開発計画 (1962)

・ 第二次全国総合開発計画 (1969)

・ 第三次全国総合開発計画 (1977)

・ 第四次全国総合開発計画 (1987)

----- 大きな転換

・ 国土のグランドデザイン (1998)

----- 抜本的制度変更

・ 国土形成計画 (2008)

・ 地方創生 (2014)

・ 第二次国土形成計画 (2015)

## 国の政策の補完としての地域づくり or 対抗運動としての地域づくり

・ 一村一品運動 (1980年代)

## 対抗軸無き時代の地域づくり

・ ゆるキャラブーム  
・ B1グランプリブーム

**迷走？ 発展？**

2000年代後半から  
交流人口目的のイベント増

# 「20世紀型まちづくり」から「新しいまちづくり」へ

## 20世紀型まちづくり

国を頂点とする意思決定

官（行政）主導

全国画一的な取り組み

「専門性」の重視

「計画性」の重視

「量的成果」の重視

専門性、計画、数値が  
だめなわけではなく、  
それが目的化＝形式化  
している問題点

## 新しいまちづくり

地域ごとの意思決定

公（協働）主導

地域特性を活かした取り組み

参加者の重視

創発性の重視

質的成果の重視

# 一箱古本市（とほほん市）の経験から



- ・ 市民が古本を持ち寄り販売
- ・ 商店街の店の軒先を借りて行う
- ・ 本のリサイクル
- ・ 本の楽しさを広める
- ・ 出店料500円



# 高校生マイプロジェクトアワードの経験から



## 高校生マイプロジェクト

高校生が身の回りの課題や関心に沿ったプロジェクトを立ち上げ、実行することを通して学ぶ、探究型学習プログラム

写真は西日本から集まった高校生の合宿の様子

初めて出会った高校生4人が、大学生・社会人（各1名）とチームを組み、触発し合いながら自分のプロジェクトを創る合宿。



# 新しいまちづくりのコツ

## ① 「お客さま」をつくらない

参加者 = 消費者から、参加者 = 生産者への転換

すべての参加者に役割を与えることによる主体性の涵養

## ② 「入れ替え可能性」を担保する

役割の固定化を防ぎ、参入のハードルを低くする

参加者の能力発揮可能性を広げるための入れ替え可能性

# 新しいまちづくりのコツ①

出店者用に  
イス準備しましょう！

出店者のみなさんに  
熱いコーヒーをサービス！

日差しがあるので、  
テントを用意しましょう！



とほほん市実行委員

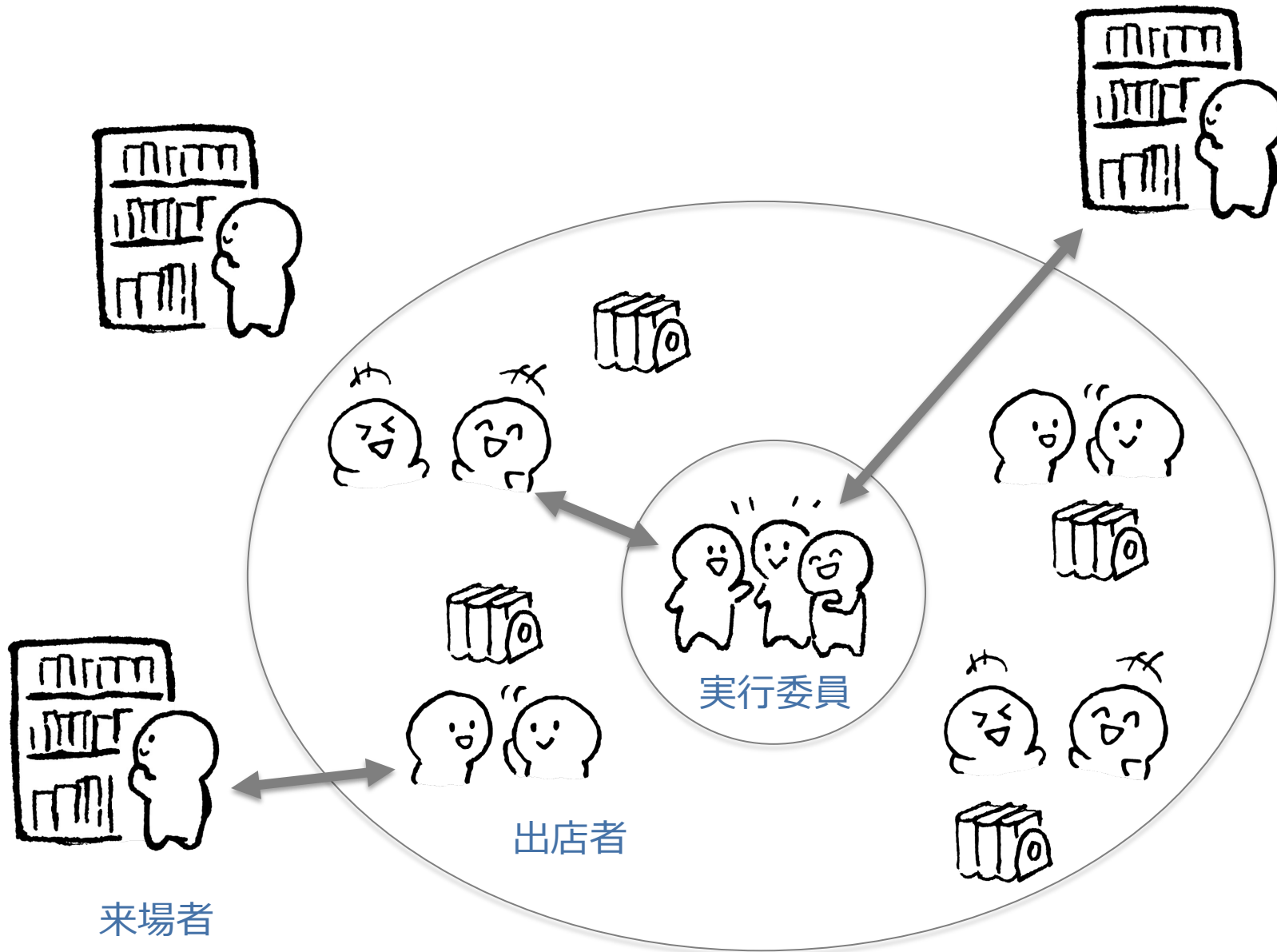


出店者を「仲間」にしたいのに…  
お膳立てしすぎると「お客さま」になってしまう

隣の出店者と助け合った方が楽しい  
してもらうより工夫する方が楽しい  
人の役に立った感がある方が楽しい

このような「場」をつくるのが大事  
**お客さまをつくらないシステム**

# 新しいまちづくりのコツ②



実行委員と出店者と来店者の  
「入れ替え可能性」をつくる



役割を固定化しない  
コミュニティを固定化しない

これからのまちづくりキーワード

- たのしさ
- かるやかさ
- しなやかさ

# 今日のまとめ

- 地域振興を国に頼る時代は終わった。
- 地域活動の担い手を育てることが何より重要。
- 「地域内の関係人口」はまだまだ増加できる。
- 地域イベントそのものではなく、イベントの先に何を創るかが大事。
- 「教育」は地域づくりにとって重要な資源であり手段である。
- 地域づくりのコツは①お客様を作らない、②入れ替え可能性を担保すること。
- 大事にしたい「たのしさ」「かるやかさ」「しなやかさ」
- 地域には眠っている底力がある。